

人脈作りを重要視したVIP2006の開催報告

小田 瑞穂[†], 澤野 弘明^{††}

[†]お茶の水女子大学大学院人間文化研究科, ^{††}早稲田大学大学院情報生産システム研究科

あまし: 情報処理学会グラフィクスとCAD研究会・画像電子学会の共催で2006年9月23日から3日間かけて行われた, ビジュアル情報処理研究会学生研究合宿2006 (VIP2006: Visual Information Processing Camp 2006) の開催報告をする. VIP2006 はポスタ発表, 登壇発表, レクリエーション, 懇親会が主な活動内容であり, 「人脈作り」を重要視した企画・運営を学生主体で行った. Web上のWiki・掲示板を用い, 参加者全員が合宿前から知り合う機会を設けることで, VIP2006当日には臨機応変な運営を行うことができた. 参加後のアンケートでは88%の学生が他大学の学生や教員と交流でき, 81%の学生が合宿への参加に満足であったと回答した.

Report of VIP2006 Focusing on the Creation of Personal Relationships

Mizuho ODA[†] and Hiroaki SAWANO^{††}

[†]Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University,

^{††}Graduate School of Information, Production and Systems, Waseda University

Abstract: This is a report on the Visual Information Processing Camp 2006 (VIP2006), held during Sept. 23 to 25, 2006, co-hosted by *Special Interest Group for Graphics and CAD of Information Processing Society, Japan* and *The Institute of Image Electronics Engineers of Japan*. The main sessions of VIP2006 were poster and oral presentations, recreation, and banquets. Our camp focused on the creating of personal relationships and was managed by students. Participants in the camp had the chance to know each other beforehand by using a wiki and a BBS. Therefore, we could archive flexible management during the camp. In the questionnaire after VIP2006, 88% of student participants answered that they could communicate with students and professors of the other universities, and 81% of them felt satisfaction.

1 はじめに

ビジュアル情報処理研究会学生研究合宿2006 (VIP2006: Visual Information Processing Camp 2006) の開催報告をする. VIP2006 は, 2001年に研究学習として開催された山梨大学, 東京大学, お茶の水女子大学の合同合宿を起点とし, 規模拡大と名称変更を経て今回で通算6回目に至る [1, 2]. 今年度も昨年度に引き続き独立行政法人国立女性教育会館で開催された. 初回から通じて, 他大学の学生との深いディスカッションの場の提供と, 大学の枠を超えた学生ネットワークを形成することを主な目

的としている. 合宿中の主な活動は, ポスタ発表, 登壇発表, そしてレクリエーションと懇親会である.

今年度の合宿には表1に示す通り, 13大学16研究室から集まった学生93名と教員14名の計107名が参加した. 学生参加者の学年と性別の内訳を表2に示す. 図1に集合写真を示す. 特に今年度は「人脈作り」をテーマとし, 企画・運営は総代表(早稲田大学・澤野弘明)と副代表(お茶の水女子大学・小田瑞穂)を中心として13の係を研究室単位で学生が分担した. 企画・運営にはWeb上のWiki[3]と掲示板を用い, 研究室の代表者だけでなく参加者全員が

表 1: 研究室別参加人数一覧

大学名	研究室名	教員数	学生数
岩手県立大学	伊藤 II 研究室	1	6
お茶の水女子大学	伊藤研究室	1	10
九州大学	鶴野研究室	1	2
慶應義塾大学	斎藤 (英) 研究室	0	3
埼玉大学	近藤研究室	1	5
東京工業大学	中嶋・齋藤研究室	1	2
東京大学	越塚研究室	0	8
	西田・高橋研究室	1	4
	山口研究室	1	9
東京電機大学	齋藤研究室	1	0
	高橋研究室	1	14
東京農工大学	斎藤研究室	2	14
東邦大学	新谷・白石研究室	2	3
日本大学	吉田研究室	1	3
山梨大学	大淵研究室	0	3
早稲田大学	岡田研究室	1	7
合計		14	93

表 2: 学生参加者の学年・性別の内訳

学年	男性	女性	合計
博士後期課程 3 年	0	0	0
博士後期課程 2 年	1	0	1
博士後期課程 1 年	6	0	6
修士課程 2 年	18	3	21
修士課程 1 年	19	15	34
学部 4 年	22	9	31
合計	66	27	93

運営に関して自由に発言する環境を設けた。これにより、合宿前から参加者が議論を通じて知り合うことができ、また合宿で親睦を深めることができた。本報告では、2 節で VIP2006 の概要、3 節で人脈作りのための企画・運営の様子を示す。4 節で合宿参加者に対して行ったアンケートを分析し、VIP2006 が参加者にとって有意義なものであったことを示す。

2 VIP2006 の概要

VIP2006 は 9 月 23 日から二泊三日の日程で行われた。合宿のスケジュールを表 3 に示す。以下に活動内容の詳細を示す。

2.1 ポスタ発表

VIP2006 に参加した学生には、ポスタ発表とその予稿提出を原則とした。発表内容は自身の研究の進捗状況や、参考にする先行研究の紹介などとした。

ただし、研究室に配属されたばかりの学部 4 年生の参加を奨励するために、発表内容のレベルは問わないものとした。5 分の準備時間、50 分の発表時間、5 分の片付け時間を 1 つのセッションとして全部で 8 セッションを設け、各セッションでは 12 人前後が同時に発表した。ただし同一研究室の多くの学生を同時に発表させた場合、コンピュータの台数不足などの問題が発生するため、1 セッションには 1 研究室から 3 名程度が発表するように割り振った。図 2 にポスタ発表の様子を示す。

なお、昨年度までの合宿では合宿直前に予稿の締切を設定していたため、提出に間に合わない学生がいた。しかし今年度は締め切りを発表用資料作成の時期と重ならないよう合宿の約一ヶ月前に設定することで、提出率 100% を達成することができた。

2.2 登壇発表

登壇発表の発表時間は 1 件につき 20 分から 30 分とし、発表者は立候補または推薦によって決定された。当日の飛び入り参加も含め、全部で 8 件の登壇発表を行った。以下に発表者とタイトルを紹介する。

- 早稲田大学・瀧口祐介「国際会議 ICPR2006[4]」
- 埼玉大学・館野圭, 東京大学・原田隆宏「国際会議 SIGGRAPH2006[5] の報告」
- 東京大学・吉田謙一, 小島加寿代「国際会議 APGV2006[6] の報告」
- 東京農工大学・宮村浩子助手「合宿の昔話」
- 東邦大学・嶋田有紀「昨年の合宿の体験談」
- お茶の水女子大学・五味愛, 伊藤貴之助教授, 東京農工大学・宮村浩子助手「お茶の水女子大学について」
- お茶の水女子大学・伊藤貴之助教授「査読について」
- 早稲田大学・澤野弘明「MIRU2006 若手プログラム [7] の紹介及び VIP2006 のまとめ」

上記のように、発表のテーマは研究を通しての体験談が中心であったため、VIP2006 に参加しなければ聴講できないような内容であった。図 3 に登壇発表の様子を示す。

2.3 レクリエーションと懇親会

全てのポスタ発表終了後にレクリエーションの時間を設け、屋外でチーム対抗のドッジボールを行った。図 4 にレクリエーションの様子を示す。

表 3: 合宿のスケジュール

Tab. 3: Schedule of VIP2006

	7:30~ 9:00	9:00~ 12:00	12:00~ 14:00	14:00~ 15:00	15:00~ 17:00	17:00~ 18:00	18:00~ 19:30	19:30~ 20:30	20:30~
9/23			準備	ポスタ発表			夕食	ポスタ発表	懇親会
9/24	朝食	ポスタ発表	昼食 & 準備	登壇発表	レク		夕食	懇親会	
9/25	朝食	登壇発表							



図 1: 研究合宿の集合写真

Fig. 1: Group photo of VIP2006



図 2: ポスタ発表の様子

Fig. 2: Poster presentation



図 3: 登壇発表の様子

Fig. 3: Oral presentation



図 4: レクリエーション (ドッジボール)

Fig. 4: Recreation (dodge ball)



図 5: 懇親会の様子

Fig. 5: Scene of a banquet



図 6: VIP2006 のための Wiki・掲示板

Fig. 6: Wiki・BBS for VIP2006

懇親会は、合宿初日と二日目の夜の計二回行った。初日は学生同士の親睦を深めることを目的とし、二日目は学生と教員との親睦を深めることを目的とした。ところで、学会にあまり参加していない学生にとってポスタ発表、登壇発表の場で、質問することが難しい場合が考えられる。そこで、初日の懇親会で親睦を深めることで、二日目からのポスタ発表および登壇発表の質疑応答の活性化を図った。その結果、初日に比べて全体的に積極的な議論をする様子がみられた。懇親会の様子を図5に示す。

3 人脈作りのための企画・運営

VIP2006 では企画・運営は学生によって行われた。特に今年度は「人脈作り」をテーマとし、そのテーマに沿った企画・運営が行われた。また、今年度から Web 上の Wiki と掲示板 [8](図6) を使用した。以下に企画と運営の様子を示す。

3.1 人脈作りのための企画

昨年度は研究室単位の参加を基本とし、研究室の代表者がメーリングリスト (ML: Mailing List) で企画と運営を行ってきた。しかし今年度は、係の仕事をマニュアル化するために Wiki を、平行して複数の議論ができるように掲示板を用いた。特に参加者全員が Web 上にて自由に閲覧し、議論へ参加できる環境にしたため、各研究室の代表者だけが少人数で閉じた話し合いをするのではなく、参加者ひとりひとりが議論の様子を直接知ることができた。結果として、企画の段階から他の参加者と知り合う機会を提供できた。

人脈作りの企画の例として、部屋割りを挙げる。VIP2006 では、施設の都合上 2 人 1 部屋の割り当てとなったため、可能な限り大学や研究室、学年が異なる 2 人を 1 部屋に割り当てるよう提案した。しかし、貴重品管理、プライバシーの有無、神経質な

表 4: アンケート結果 (回答総数を基数にとったときの相対度数 (%))
 Tab. 4: Questionnaire item and result (Relative frequency based on total number of all answers (%))

(a) 学生用					
(a) for students					
アンケート項目	肯定	←	→	否定	合計 (人数)
(S _a) Wiki・掲示板における準備や議論に積極的に参加できたか	7.1	11.9	20.2	60.7	99.9 (84)
(S _b) Wiki・掲示板は使いやすさ・わかりやすさはどうだったか	4.8	19.3	47.0	28.9	100.0 (83)
(S _c) 去年の ML に比べて Wiki・掲示板はどうだったか	50.0	39.5	10.5	0.0	100.0 (38)
(S _d) 自分の発表の準備・発表は満足できたか	8.3	51.2	38.1	2.4	100.0 (84)
(S _e) 他人の発表について十分な質問・議論ができたか	15.9	63.4	19.5	1.2	100.0 (82)
(S _f) 登壇発表についてはどうだったか	36.7	49.4	11.4	2.5	100.0 (79)
(S _g) 合宿全体のスケジュールについて満足できたか	25.0	47.6	23.8	3.6	100.0 (84)
(S _h) 他大学の学生、先生方と交流できたか	41.7	46.4	11.9	0.0	100.0 (84)
(S _i) 合宿全体を通して、満足できたか	26.2	54.8	17.9	1.2	100.1 (83)

(b) 教員用					
(b) for professors					
アンケート項目	肯定	←	→	否定	合計 (人数)
(P _a) ポスタ発表の準備や質問に対する回答などはどうだったか	30.0	60.0	10.0	0.0	100.0 (10)
(P _b) 登壇発表の内容はどうだったか	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0 (9)
(P _c) 合宿全体のスケジュールについて満足できたか	45.5	45.5	9.1	0.0	100.1 (11)
(P _d) 懇親会、レクリエーションはよかったか	54.5	36.4	9.1	0.0	100.1 (11)
(P _e) 学生にとって有意義なものになったと思うか	70.0	30.0	0.0	0.0	100.0 (10)
(P _f) 来年以降も学生を参加させたいか	63.6	36.4	0.0	0.0	100.0 (11)

ので知らない人と同室では眠れない、などの意見から、希望制で同じ研究室の参加者との部屋割りも可能にした。実際、9割の学生は他の研究室の学生と同室になることを希望し、交流する機会を提供した。

また、レクリエーションのチーム編成も「人脈作り」を重要視した。1チームには大学や研究室、学年をバランスよく配分し、教員も混ぜ、全部で8チームを編成した。それにより学生間だけでなく、学生と教員が接する機会が増えた。

3.2 当日の運営

当日の運営では、企画段階の議論で想定していない問題がしばしば生じた。一例として、懇親会の時に起きた問題を以下に紹介する。

初日の懇親会の場所として合宿所の共有スペースを予定していたが、他団体に使用されていたため、急遽別の部屋を使用することになった。懇親会係だけでなくその場にいた参加者の協力により、無事に別の部屋を複数確保することができた。しかし、参加者全員が入る程度の大部屋を確保できなかったため、懇親会の部屋割りにはレクリエーションのチームを利用した。これにより、結果的にチーム内の親睦を深めることができた。

二日目の懇親会では予定していた共有スペースを使用することができた。レクリエーションのチームで写真を撮る場面も見られた一方で、同じ研究室の参加者同士で集合してしまう様子もあった。また教

員も個々に学生と交流をし、中には懇親会においても、研究について議論する姿も見られた。

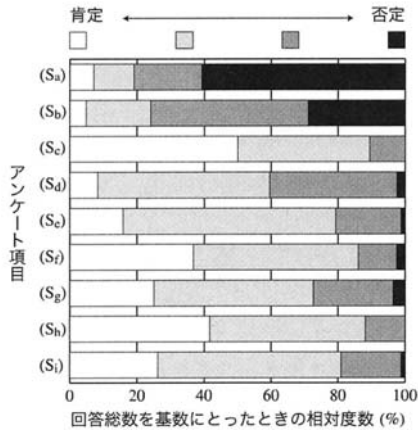
4 アンケート結果と考察

VIP2006の参加者に対し、意識調査のためにアンケートを行った。アンケート結果とその考察を示す。

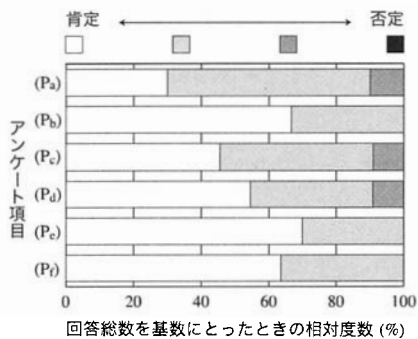
学生用アンケート

学生に対するアンケート項目及び集計結果を表4(a)、その結果の分布を図7(a)に示す。ただし未回答を人数に含めないため、回答総数を基数にとった相対度数とする。図において分布の白色は肯定意見、黒色は否定意見を表す。

質問(S_a)~(S_c)のWiki・掲示板の利用において、まだまだ使い勝手はよくないという意見が多いが、研究室代表者だけでなく参加者全員が閲覧することができ、これまでのMLだけの利用よりは改善されたことが確認された。質問(S_d)~(S_f)のポスタ発表や登壇発表に関しては肯定意見が多かった。ポスタ発表は、教員は積極的な発言を控え、学生が議論する時間を多くとるものとした。これは昨年度のアンケートにおいて、質疑応答の時間に教員ばかりが質問してしまい、学生が質問できなかつたという意見があったためである。学部生には概ね好評であったが、修士もしくは博士後期課程の学生にとっては議論が物足りないという意見があった。質問(S_g)のスケジュールについては、セッション間に休憩時間



(a) 学生用
(a) for students



(b) 教員用
(b) for professors

図 7: アンケート結果 (表 4) の分布
Fig. 7: Distribution of questionnaire results

が少ないという意見も得られたが、肯定意見の方が多かった。質問 (S_h) は VIP2006 のテーマ「人脈作り」に対応しており、アンケート結果より 88% の参加者が肯定していたため、他大学の参加者と交流できたことが示された。合宿全体の感想を示す質問 (S_i) では、81% の学生が満足という結果になった。これらアンケート結果により、学生にとって有意義な合宿であったということが確認された。

自由記述の一部を以下に示す (原文のまま)。

- 掲示板の内容と各タイトルが対応していないため、全ての内容について確認する必要がある。
- 既出の意見に対して反対するのは心理的に難しい。

- 情報を知っているものとして処理してしまうことがあったのが問題になることがあった。
- 研究室内の合宿係を通さずとも情報が確認できるのが良かった。
- 英語翻訳機能が欲しい。(留学生)
- 先生の鋭い質問やアドバイスを期待していたが、無かったので物足りない。
- 他学校の人との交流は合宿で一番の収穫かもしれない。
- 過去数年間と比べると一番だったかも。

教員用アンケート

教員に対するアンケート項目及び集計結果を表 4(b), その結果に対する分布を図 7(b) に示す。学生用アンケートと同様、回答総数を基数にとった相対度数を用い、図において分布の白色は肯定意見、黒色は否定意見を表す。教員に対するアンケート結果では、全体的に肯定意見が多かった。研究発表という点においては物足りなかったが、昨年度よりも学生を参加させて良かった、という意見が多かった。自由記述の一部を以下に示す (原文のまま)。

- 以前よりも先生からの質問はやさしくなったように思う。昨年よりも参加してよかったという学生がいたので、この方が学生は参加しやすいのかもしれない。
- ポスタ発表のスケジュールにもう少し工夫があっても良い。
- レクリエーションがもっと長い、あるいは複数回あってよいのではないのでしょうか。できれば、レクが日程の早めにあつた方が、学生間の親交が深まると思う。
- まだ研究未経験の学部生の参加にも配慮したのがよかったと思います。
- モチベーションアップに最適。
- 自分の研究室の学生は楽しかったみたい。それが一番。昨年よりも学生の交流が深い印象を受けた。
- 今年は結構アイデア満載で、合宿の運営としては非常に良かったと思っています。
- ぜひ学生を参加させたいと思っています。
- 先生の質問はあまり制限しない方がいいように思った。

学生、教員のアンケート結果より、VIP2006 が参加者にとって有意義であったことが示された。

5 おわりに

本報告では 2006 年 9 月 23~25 日に行われた VIP2006 について述べた。VIP2006 では「人脈作り」を重要視した企画・運営を心がけた。また、今回の参加者に対して行ったアンケートの結果により 8 割以上の学生参加者にとって、VIP2006 で他大学の学生や教員と交流ができ、有意義であったことが確認された。今回、Web 上の Wiki を用いることで係の役割を文書化することができた。そのため、来年度以降は合宿特有の企画に焦点を当てた議論ができると考えられる。

筆者らによる来年度以降の合宿への希望を以下に示す。

- 合宿の特色となるイベントを設置
- 関東以外もしくは海外での開催
- 年複数回開催(夏、冬)
- 遠隔地からの参加者の旅費支援・補助
- 合宿参加経験のある OB・OG の訪問

謝辞 VIP2006 を運営するにあたり、画像電子学会、情報処理学会グラフィクスと CAD 研究会からの支援及び参加された教員のご協力を頂き、VIP2006 が充実したものになった。以下に参加して頂いた教員を紹介する(五十音順)。

- 岩手県立大学・松田浩一講師
- お茶の水女子大学・伊藤貴之助教授
- 九州大学・鶴野玲治助教授
- 埼玉大学・近藤邦雄助教授
- 東京工業大学・齋藤豪助教授
- 東京大学・山口泰教授、高橋成雄助教授
- 東京電機大学・高橋時市郎教授、田代裕子助手
- 東京農工大学・斎藤隆文教授、宮村浩子助手
- 東邦大学・新谷幹夫教授、白石路雄講師
- 日本大学・吉田典正助教授
- 早稲田大学・岡田稔教授

14 名もの教員の方々には、多忙な中 VIP2006 に参加して頂き、多くの話題を拝聴することができた。特に、研究合宿の初回から携わっていた東京農工大学・宮村浩子助手には、全般にわたりの確かなアドバイスを頂いた。VIP2006 に参加して頂いた教員の皆様は勿論、学生参加者の皆様、VIP2006 の会場として利用させて頂いた、独立行政法人国立女性教育会

館の施設の関係者の皆様のおかげで無事に VIP2006 を開催することができた。ここに深く感謝する。

さらに画像電子学会・藤代一成副会長の御好意により、画像電子学会誌 Visual Computing 特集号 (35 巻第 4 号)100 冊、画像電子学会誌 Visual Computing 特集号 (33 巻第 4-B 号) 40 冊を無償配布した。関係者の皆様に感謝の意を示す。

また、本報告を作成するにあたり、指導して頂いたお茶の水女子大学・伊藤貴之助教授、早稲田大学・岡田稔教授に心より感謝する。

本報告の一部は画像電子学会誌 (2006 年 11 月) の報告 [9] に基づいている。

参考文献

- [1] 柴原隆太, 田代裕子, 宮村(中村) 浩子: “ビジュアル情報処理研究会学生の会合同合宿報告”, 画電学誌, Vol. 34, No. 6, pp. 793-797 (2005)
- [2] “ビジュアル情報処理研究会学生の会合同合宿 2005”:
<http://www.vcl.im.dendai.ac.jp/~camp/2005/>
- [3] “What Is Wiki”:
<http://wiki.org/wiki/cgi?WhatIsWiki>
- [4] “ICPR2006 - 18th Int'l Conf. on Pattern Recognition”:
<http://www.comp.hkbu.edu.hk/~icpr06/>
- [5] “ACM SIGGRAPH 2006 - 33rd Int'l Conf. on Computer Graphics and Interactive Techniques”:
<http://www.siggraph.org/s2006/>
- [6] “APGV 2006 - 3rd Symposium on Applied Perception in Graphics and Visualization”:
<http://www.apgv.org/archive/apgv06/>
- [7] 天野敏之, 岩村雅一, 岡部孝弘, 加藤毅, 玉木徹, 内田誠一: “MIRU2006 若手プログラム報告”, 信学技報, PRMU2006-183, pp. 73-84 (2006-12)
- [8] “ビジュアル情報処理研究会学生研究合宿 2006”:
<http://vip.okada-lab.org/>
- [9] 澤野弘明, 小田瑞穂: “ビジュアル情報処理研究会学生研究合宿 2006 の開催報告”, 画電学誌, Vol. 35, No. 6, pp. 914-919 (2006-11)